

# 個別支援から地域の力をアップする ソーシャルワーカーの取り組み

氷見市社協では、市内全地区にある地区社協で、住民主体の地域福祉活動が展開されています。設立から約30年の活動を通じ、さまざまな住民の困りごとを地域の課題として捉え、新たな活動へと展開してきました。今回は、住民の活動を市社協のソーシャルワーカーが支援し住民とともに地域の力を高める様子を展示します。

## 個別支援から 地域の力をアップする ソーシャルワーカーの取り組み

### 氷見市はこんなところ

人口： 47,180 人  
世帯： 17,555 世帯  
高齢化率： 37.5 %  
年少率： 9.3 %  
地区社協： 21 地区  
(全地区設置)

#### ●下準備

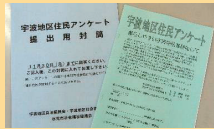
- ・地域生活課題の整理  
→地域福祉計画
- ・地域の選定  
→地域アセスメント  
シートの活用
- ・リーダーに促す  
→実績の評価  
地域訪問  
アウトリーチ



地域のニーズと  
社会資源の可視化  
問題提起

#### ●動機づけ

- ・課題の整理(見える化)  
→住民アンケート



- ・進行役は地域の人  
→事前打合せ



全てを住民任せにせず  
専門職や行政の  
役割整理

#### ●協議・検討

- ・人材育成と合わせて  
→サポーター研修・寸劇  
レクリエーション  
タイムトラベルボード  
等の活用



目指す姿・方針の共有  
合意形成



- ・目標の明確化  
→生活支援サービス実施

#### ●活動のサポート

- ・新たな気づきの促し  
→定期的な振り返り  
(お疲れさん会)



- ・地域外への活動周知  
→広報、メディア



次の展開に向けた  
アセスメント等を行  
う

### この過程を繰り返し、地域の力がUP!!

#### 集合型支援の開始

ふれあいサロン  
《シルバー談話室》  
《ふれあいランチ》



ここに人が来ることが  
出来ない人へはど  
う支援しようか。

#### 個人支援の開始

ケアネット活動  
地域による  
見守りや声かけ



Aさんは買い物に、  
Bさんはゴミ出し  
に困っているって。

#### 生活支援 サービスの開始

外出支援



買物支援



▶ H22～安心生活創造事業

▶ H19～市社協職員のエリア担当チーム制(※)導入

▶ H15～ケアネット活動

▶ S60～地区社協設立

※市社協の各部署の職員を横断的にチーム化し、21地区を4つに分けたエリア単位で支援しています。

